

緑の列島 木の家スクール名古屋 2016

主催：「緑の列島 木の家スクール名古屋」実行委員会

共催：NPO 法人 緑の列島ネットワーク、名古屋工業大学 木の文化研究フォーラム

後援：伝統木造技術文化遺産準備会、職人がつくる木の家ネット、公益社団法人日本左官会議

「木の家スクール名古屋」は「木の家」のつくり方と暮らし、森と木の文化について学ぶ連続講座です。2003年にはじまり、14年目となりました。今年のテーマは、「この先の木の建築のために、歴史と今を読み解く」です。

省エネや耐震など、建築に関わる状況が変化する今、歴史や海外、国内の状況を俯瞰的に見ながら、これからの木の建築のあり方を皆さまと考えたいと思います。



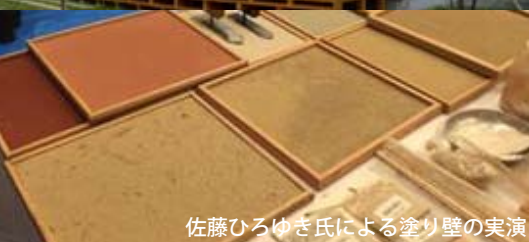
復元された明治座の石置き屋根



大山の小屋 (大角雄三)



土塗壁ゼロエネルギー木造住宅「ZETH」



佐藤ひろゆき氏による塗り壁の実演



サンクト・ゲロルトの庁舎

講座 (第1回~第5回)

■受講対象：「近くの山の木を使った家づくり」や「緑あふれる居住環境」に関心のある生活者・技術者

■受講料：15,000円 (資料代含む)

受講料は初回受講時に受付にてお支払ください。

■申込方法：木の家スクールのホームページからのお申し込みを基本とします。

申込

緑の列島 木の家スクール名古屋 HP

<http://kinoieschool.wix.com/nagoya>

注：ホームページのURLが昨年と異なります。

(下記申込書にご記入の上、FAXにて申込みいただくことも可能です)。

■募集：4月10日から受付開始 (お早めに申し込み下さい)

■定員50名 (申込先着順)

会場：名古屋工業大学 (第3回以外)

- ・名古屋工業大学は、JR中央線・地下鉄鶴舞駅下車 徒歩約8分。
- ・会場の詳細は申込者に別途連絡します。
- ・第3回のフィールドワークの集合時間、場所等は別途連絡します。
- ・講座修了時に、修了証をお渡しします。
- ・講義終了時刻は多少前後することがあります。
- ・欠席された場合は、資料のみ後日送付させていただきます。
- ・CPD単位申請予定。

運営事務局：〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学内 木の家スクール名古屋 事務局 藤岡

E-mail: fujioka@nitech.ac.jp

木の家スクール名古屋 (全5回) 受講申込書 [FAX送信用]

■氏名 (ふりがな) ()

■住所 〒

■携帯電話番号 ()

■FAX番号 ()

■E-mail

■勤務先・所属

⇒ FAX 送信先：0561-57-6732 (宇野総合計画事務所)

第1回 5月28日(土) 13:30-17:00



網野 禎昭 法政大学 教授

ヨーロッパの木造建築から「木と建築と社会」を考える

日本では木造の技術的挑戦に期待が集まっています。しかし、なぜ木造なのか、という根本的な議論はあまり耳にしません。木造振興本来の目的とされる持続性のある社会とは一体どのようなものなのでしょうか。古くから木造で都市を築き上げたヨーロッパ文明に着目し、「木造建物と地域社会の持続的な関係」を俯瞰することで、これからの日本における木造のあるべき姿を考えます。



大角 雄三 大角雄三設計室

民家に学ぶ 一民家のボキャブラリーで新しい建築を考える

私の仕事場のまわりには、古い大きな民家が点在しており、昔ながらの風景がまだ残っています。風景となっている民家には興味を引く魅力的な要素が詰まっており、私の仕事にとっては貴重な財産であり、私の建築スタイルの一つとなっています。民家を学ぶことによって、より魅力的な現代建築が出来るきっかけになればと思っています。

profile 1967年生まれ。早稲田大学卒、東京大学大学院修了。1996年に渡欧し、スイス連邦工科大学ローザンヌ校にて博士号を取得。ウィーン工科大学アシスタント・プロフェッサーを経て、2010年から法政大学教授。専門は木造建築の構法。2015年低市場価値木材を活用した住宅「木のカタマリに住む」がグッドデザイン賞ベスト100受賞。

profile 1949年岡山県生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業。1987年に倉敷建築工房 大角雄三設計室設立。日本建築学会業績賞(古民家再生工房)、第1回 JIA 環境建築賞最優秀賞(黒谷の家)、第5回サステナブル住宅賞(芝山町の家)、第5回 JIA 中国建築大賞住宅部門 大賞(大山の小屋)、日本建築学会作品選奨(大山の小屋)など受賞。

第2回 6月11日(土) 13:30-17:00



佐藤 ひろゆき 佐藤左官工業所・京都工芸繊維大学シニア・フェロー

土壁・漆喰壁に秘められた魅力を語る

左官塗壁の歴史全般、特に土壁・漆喰壁の歴史と変遷及び特徴を紹介し、その物性・機能性がいかに優秀な素材であるかを検証します。又、材料・道具・塗見本を実際に見て触れて施工して、左官技術の多様さと奥深さを体感していただきます。そして左官塗壁をどのように現代建築に取り入れて行けば良いかを提案します。

profile 1951年生まれ。高校卒業後、家業である佐藤左官工業所に就職し、同時に立命館大学二部(夜間)理工学部に通学。卒業後、東京の西京工業で修業し、土壁・漆喰壁を中心に研鑽を積む。帰京後は主に、茶席・教習屋建築の土壁を施工する左官職として現在に至る。京都左官協同組合理事、京都工芸繊維大学シニア・フェロー(伝統みらい教育研究センター)、学術博士、京都府左官技能専修学院講師、左官一級技能士・職業訓練指導員・左官基幹技能者。著作に「土壁・左官の仕事と技術」(学芸出版社)。

第3回 7月30日(土)

【フィールドワーク】 岐阜県中津川市 現地集合

※集合場所・時刻については、別途連絡いたします。名古屋工業大学発着の大型バス(有料)を利用することができます。



川端 真 川端建築計画 代表

創建当時(120年前)の姿に復元された明治座の見学と解説

1984年(明治27)に創建された明治座は、限界耐力計算による検討と伝統的手法による耐震補強を行い、セメント瓦で改修されていた屋根をかつての石置き屋根(檼葺き)に復元しました。地域住民、専門家、学生が一丸となって取り組みました。現場で見学しながら解説をいたします



金子一弘 協同組合東濃地域木材流通センター(木 KeyPoint) 代表理事

地域型ゼロエネルギー木造住宅を体感する

地域の気象条件と土塗壁を活かしたゼロエネルギー木造住宅「ZETH(ゼツツ)」を見学いただき、解説します。地域工務店が造る良質な木造住宅のための技術開発の内容、地元木材の流通拠点である東濃桧を中心とした木材製品市場などについても紹介します。

profile 1986年、名古屋工業大学建築学科卒業。建築設計事務所勤務を経て、1997年、川端建築計画を設立し、建築設計監理を行い現在に至る。2003年、木造限界耐力計算の考え方に感銘を受け、伝統構法に関する設計や文化財の耐震改修等にも取り組んでいる。

profile 協同組合東濃地域木材流通センター(木 KeyPoint) 代表理事。1977年金子建築工業㈱入社、1984年代表取締役社長就任。1993年協同組合東濃地域木材流通センター設立、代表理事就任。東濃桧と国産材の流通合理化、木造住宅のPRに積極的に取り組む。住まい作りのための勉強会・講演会などを開催。「地域型ゼロ・エネルギー木造住宅の開発に関する研究」にも取り組んでいる。

第4回 9月10日(土) 13:30-17:00



佐藤 義信 KUU・KAN 設計室主宰、(株)日建設計顧問

先人の価値観を受け継ぐ京都迎賓館

「住まい」を芸術の域まで昇華させた、先人の日本の建築の系譜を判りやすく解説。柱、屋根、壁、床、建具、それぞれの現在の姿とその背景について。未来に向けての日本建築の在様とは。京都迎賓館では、日本建築のプロポジションを現代技術で実現すること、柱を中心とする日本の室内空間の秩序、庭園と一体となった室内空間の実現「庭屋一如」をめざしました。



樫崎 達也 大手住宅メーカー 林業コンサルタント部門

地方創生における林業と木材産業 一地方が採るべき戦略とは

地方(中山間地)の経済創出のため、地域に豊富に存在する森林資源に期待がかかります。しかし、森林資源の活用には、所有面、林業面、加工面など課題が多い。本講義では、課題の整理と解決に向けた取り組み事例を紹介し、地方が採るべき振興戦略、設計士・大工・工務店のかかわり方について提案します。

profile 1949年生まれ。東京芸術大学大学院修了。1974年日建設計入社。設計室長、技師長、理事を経て、現在は設計顧問。2012年に KUU・KAN 設計室を設立、主宰。日建設計では、福井県庁舎、トヨタ博物館、沼津市立図書館、掛川市中央図書館、身延山久遠寺信徒会館、京都迎賓館などを担当。受賞多数。

profile 1973年生まれ。生家は、植木苗木業・造園業・兼業農家。州立ニューブランズウィック大学 テクノロジーマネジメント&アントレプレナーシップ・ディプロマ(カナダ)、京都大学大学院農学研究課森林科学専攻終了(博士課程中退)。2003年UFJ総合研究所入社。2011年より住友林業株式会社(現在に至る)

第5回 10月29日(土) 13:30-17:00



上野 英二 オークビレッジ 木造建築研究所所長

日本の建物

日本の建物は昔から木造に決まっていた。それは豊かな自然が育てた木材資源を使い、加工と組立てが容易にできたからだと考えられます。特に住まいにおいては高温多湿な気候環境のなかで、木造は最も人に優しい建物でした。更に土を壁に塗ることが調湿性、耐震性を高め日本の家を完成させました。このすぐれた建物を未来に繋げたい。



渡邊 晶 建築技術史研究所 所長

大工道具と建築・文明・地球環境との関係を探る

ユーラシア大陸の西と東において、鋸と台鉋は押し使いです。西と東の間に、鋸を引き使い、台鉋を押し使いしている地域がありますが、ユーラシア大陸の植生図と照合すると針葉樹が多く生育している地域と一致します。しかし鋸と台鉋を両方とも引き使いしているのは、ユーラシア大陸東端の島・日本以外、見る事ができません。なぜなのか、一緒に探ってみましょう。

profile 岐阜県飛騨高山生まれ。名古屋の設計事務所に入所するも、木の魅力を再認識し、1985年からオークヴィレッジに参加。現在は木造建築の設計を行う。2011年、木造復興住宅「合掌の家」を宮城県気仙沼市に建設。その他、飛騨高山伝統構法マニュアルの作成等も関わる。主な著書『木でつくる住まい』執筆・監修(地球丸刊)

profile 文化財建造物保存技術協会にて国指定重要文化財建造物の調査と保存修復に従事した後、竹中大工道具館に勤務。建築技術史と関連させて、道具の発達史を研究。2000年、東京大学より「近世における大工道発達史の研究」にて「博士(工学)」の学位。主な著書に『大工道具の文明史』、『建築技術比較発達史の研究』など。